

小さな群れ

2024年10月
2024年9月22日発行
主任司祭 ナルチゾ・カヴァッツォラ

ホームページ <https://caterina.sakura.ne.jp>

アメリカには、白人と黒人がいて、黒人が差別されていることは、よくご存知だと思います。この黒人達は、十八世紀から十九世紀にかけて、アメリカの白人達によって、強制的に彼らの母なるアフリカから船に乗せられて連れてこられました。



彼らの気持ちは、黒人霊歌によく表されています。「私は母のない子のように」という霊歌は、アフリカが自分の母、アメリカは自分の母ではないという悲しい歌です。また「深い河」という霊歌は、アメリカとアフリカの間には、渡ることのできない深い海があり、帰りたくても帰れないという慟哭の歌です。

しかしこの黒人達は、キリスト・イエスを知ることによって、その気持ちは変わってきます。まず「私の主を十字架につけた時、あなたもそこにいたのか」という霊歌になります。イエスは十字架にかけられ、生贄となり、復活したように、自分も今十字架にかけられているが、いずれ復活するという気持ちに変わってきました。また「エイメン」という霊歌があります。エイメンは、アーメンのことで、“そうなりますように” “神のみ心が行われますように” という意味です。その気持ちがさらに深まり、悲しみは喜びの歌に変わっていきます。

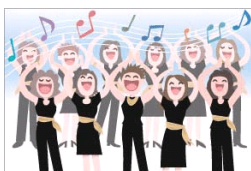
「聖者の行進」は、そういう歓喜の歌です。その歓喜がさらに強まり有名な「ジェリコ」という力強い霊歌になっていきます。ユダヤ人が母国に帰った時に、神の助けによって、ジェリコの厚い壁をこわすことによって、母なる国に帰ることができたように、黒人も白人との厚い壁をこわして、神の国を築くことができるでしょうという意味の歌です。

私は日本にくる前に、イギリスのリバプールに居たことがあります。当時のリバプールは、炭坑の町で、貧しい人が多かった。その町からビートルズが生まれました。彼らの歌の中に、「Let it be」という有名な歌があります。聖母に捧げられた歌です。「Let it be」はエイメン、アーメンと同じ“神のみ心のままに” という意味です。毎日家族を養うのに、苦勞し、不安ですが、聖母マリアがお祈りしてくれるならば、“Let it be” 神のみ心のままに。病気とか、様々な不安があっても、聖母がお祈りしてくれるなら、そのままでもいいよ、神はきっと助けてくれる。つまり苦しみの中の希望の歌です。

イエスも、エルサレムに最後の旅をした時に、自分がこれからどういう運命に逢うかを予感していました。それでも逃げないで、エルサレムに立ち向かいました。

彼の人間としての気持ちは、最後の晩さんの後、ゲツェマニの園でお祈りした時です。

“父よ、できればこの盃（さかずき）を遠ざけてください。でも私の思うようにはなく、あなたのみ心のままになりますように” つまり、この盃、いわゆる逮捕され、ムチ打たれ、十字架にかけられるという、辛い薬の盃を遠ざけてほしい。しかしこの犠牲（いけにえ）が、人の救いのために必要ならば、神のみ心のままに。



苦しみや叫びの中から、希望がでてきます。私は“アーメン”という言葉を使う時に、不安いっぱいと言います。「アーメン」だけで非常に深い祈りになります。人は“アーメン”を言うために、生まれてきたのではないのでしょうか。

砂川教会 お知らせ

砂川市東5条南3丁目3-1 TEL 0125-52-4617 FAX 0125-52-4618

10月の主な典礼・ミサ時刻

日	曜	典礼暦	担当
6	日	年間第27主日 当教会出身聖職者、修道者のために祈る日	9:00 ミサ 先読み：多田 第1：西川 第2：野呂 答唱詩篇：三上夫妻 オルガン：能村
13	日	年間第28主日 司祭と召出しを求めるために祈る日	9:00 ミサ 先読み：高塚 第1：本田 第2：間野 答唱詩篇：多田・野呂 オルガン：能村
20	日	年間第29主日 世界宣教の日 病者と洗礼志願者のために祈る日	9:00 ミサ 先読み：多田 第1：三上朋 第2：安藤 答唱詩篇：三上夫妻 オルガン：能村
27	日	年間第30主日 教会から離れた信所のために祈る日	9:00 ミサ 先読み：高塚 第1：久保 第2：西川 答唱詩篇：間野・木下 オルガン：能村
◆平日のミサ 月曜日～金曜日 6:00 土曜日 10:00			

◆今月の霊名記念日の方 … おめでとうございます（敬称略）

1 日	幼き聖テレジア	間野千鶴枝・室井寿子・千田玲子・高塚紀子
4 日	聖フランシスコ（アシジ）	千田孝嗣・久保榮紀・高塚諭
29 日	聖ナルチゾ	ナルチゾ神父様

◆お知らせ

- ・9/17 多比良孝さん(84歳)が洗礼を受けられました。(霊名 聖ロベルト・ベラルミノ)
おめでとうございます。
- ・毎週水曜日 10:00～ 聖書に親しむ会を実施しています。
- ・10月はロザリオの月です。

毎週日曜日 8:30 からロザリオを唱えます。

◆幼稚園関連

- ・22.23日 2025年度願書受付

砂川 花当番	
5日(土)	西川
12日(土)	木下
19日(土)	多比良
26日(土)	高塚





美唄教会 2024 年 10 月 主日ミサ・平日のミサ予定

美唄市東 2 条南 3 丁目 2-10 TEL&FAX 0126-63-2434

美唄教会 小さな群れ

通巻No.329

2024 年 10 月

2024 年 9 月 22 日発行

・主日ミサ 朝の祈り 「ロザリオの祈り」 ミサ前 10:30~

日	曜	ミサ		各種勉強会	会議・その他事項
		主日・祭日	時間		
4	金	【記念日】 アシジの聖フランシスコ	午前 10:30	聖書に親しむ(ミサ後)	
6	日	年間第 27 主日	午前 11:00		9:00~秋の大掃除 ミサ後 運営委員会
11	金		午前 10:30	聖書に親しむ(ミサ後)	
13	日	年間第 28 主日	午前 11:00		
16	水				【ロザリオの祈り】 午後 5 時 30 分より (聖堂にて)
18	金		午前 10:30	聖書に親しむ(ミサ後)	
20	日	年間第 29 主日	午前 11:00		
25	金		午前 10:30	聖書に親しむ(ミサ後)	
27	日	年間第 30 主日	午前 11:00		

《 平日のミサ 》 金曜日のみ 午前 10:30 4・11・18・25 日です
《 聖書に親しむ 》 平日のミサ後、旧約聖書に親しんでみませんか。

霊名の祝日 (敬省略)		清掃当番
1 日 幼き聖テレジア	蓮井 愛・吉村 知江子	【第 2 週】松山・小川(ま) 【第 4 週】村田
4 日 アシジフランシスコ	船野 奨・吉田 淳一 米通 佑太	
4 日 マリア、フランシスカ	東 小夕希	花当番
4 日 フランシスカ	小西 優	大城
24 日 ラファエラ	小川 亜沙子	

【お知らせ】

- ◎ 10 月 6 日 秋の大掃除を行います。 ミサ前 9:00 から
聖堂内のすす払い、丁寧にぞうきんがけ、聖堂東側外の窓ふき 等
- ◎ 札幌カリタスの献金は、6,500 円でした。ありがとうございました。
- ◎ 『小さな群れ』への記事などを募集しています！

フランシスコの生き方

ナルチゾ神父の講話(HP)より

私は第二の太平洋戦争中に北イタリアの農家の家で生まれたのですが、主にサクランボ・ぶどうなど大自然の物を作って暮らしていました。毎日40分ほど歩いて学校に通い、生まれた村のすぐ近くには、フランシスコ会の修道院がありました。

その修道士達は、四旬節の時日曜日に告解を聴くためとか、御説教をするためとか、いろいろな機会に私の村まで来ていました。また自然の収穫とともに、麦やぶどう・サクランボやとうもろこしなどを托鉢にみえることもありました。いつも貧乏な修道士達は裸足にサンダルを履き、荷物を入れる馬車・馬車を引く馬かラバ・又はロバをつれ、いつもニコニコして歌をうたいながら、家から家へ回り「主の平和」と挨拶をしていきました。

お昼御飯を、いろいろな家でごちそうになり、ぶどう酒も好きで酔うほどではないのですが、顔を赤くして飲んでいたことを覚えています。私はまだ5、6歳の頃だったのですが、この修道士達の幸せそうな顔は、私にとっての喜びとなっていました。

冬の時、寒くても裸足で歌をうたいながら歩いている姿を見ると私は不思議に思いました。父や母は修道士達の生活は大変だと話をしてはいるのですが、私にはこの修道士達の人生が楽しいものに見えたのです。この頃から私の心の中では、大きくなったら修道院に入りたいと思うようになりはじめました。又アシジの聖フランシスコの生き方は積極的であり、人に喜びをうるものだと分かりはじめ、私も修道院に入り修道士になった時、自分の心の中にもその喜びがあふれる様になるためにも、もう一度聖フランシスコの歩んだ道を歩く必要があるんだなあと思いました。

もちろんそれは簡単なものではないということが分かりました。毎日悪と戦い、自分の悪い傾きと戦いながらイエズス様のように、イエズス様をモデルにして生きる様にしなければ決して自分の心の中に喜びが生まれてくることは出来ないからです。

日本に来て、日本人はアシジの聖フランシスコにもものすごく魅力を感じていることが分かりました。なぜ魅力を感じているのかは、はっきりとは分からないのですが、おそらく自然に対する尊敬の念と、人間のわび、さび、しづみに共通する思いがあるのではないかと思います。初めにわび(侘び)は、おちついていて、さびしさのあるおもむき、閑寂など俳かいや茶道の精神を示しているのですが、フランシスコもこの様なわびの生活を送りたかったと言う気がします。

次にさび(寂び)は、もの静かでおもむきがある、じみだが平和な生活を送るなどの意味で松尾芭蕉(1644-1694)がうたっていると思うのですが、運命や神のおぼしめしに従って生きる意味もあり、日本人にとってもこの様な気持ちは強いのではないのでしょうか？

最後にしづみ(渋)ですが、室町時代(1333-1568)からしづさ、しづみとして表されており、せいそな物を楽しむことを示し、アシジの聖フランシスコも、鳥のさえずり、魚の色、木の葉の揺れる音などを好み、もっとも東洋人に近い西洋人の聖人だと思うのです。

ヨーロッパへ行くたびにアシジにも寄るのですが、主に日本人が多く、やはりヨーロッパの中でアシジは、わび、さび、しづみを示す場所であり又聖フランシスコは、ヨーロッパの中で、このような東洋的な文化を作った人とも言えるでしょう。日本語の学校に通っていた時に、僧であり歌人でもあり書家でもある、良寛さん(1757-1831)について学んだのですが、良寛さんもアシジの聖フランシスコとの共通点が多いと思いました。一つは、2人ともお金、物などを捨ててしまい、物質からの欲を開放した人であり、次に、不思議なことに、アシジの聖フランシスコと聖女クララとの間にすばらしい交際があった様に、良寛さんの生活にも「ていしん」と言う若い尼さんとの交際があり、生活に輝きと彼にうたう喜びを与えていたのです。良寛さんは、中国語でも日本語でも、短歌や長歌を作った人ですが、聖フランシスコもイタリア語の最初の詩人であり、またイタリア語でも、ラテン語でも、フランス語でも詩などを書いていたのです。

東洋と西洋を比較することは難しいと思うのですが、アシジの聖フランシスコはみごとに、東洋の世界を西洋に紹介した様な気がします。ただ、東洋人にならぬ聖フランシスコの特徴は『喜び』ではないかと思えます。『喜び』は人間になった神を信じるころから生まれてくるものであり、東洋にはこの様な信仰がないので、なんとなく暗い影がいつでもある様な気がしてしまうのです。「聖フランシスコの喜び」は、神様の作った自然のものから生まれて来ると同時に、クリスマスの赤ちゃんになった神様の顔でも、その喜びは満たされ、苦しみは、自然を破壊する所から生まれて来ただけでなく、十字架の上で死んでいる神様を見るところから、またその十字架のもとで苦しんでいるお母さんの聖母マリアをながめることから出て来るのです。

私が子供の頃に見た修道士の喜びは、この様な喜びだったと思えますし、あの頃見えなかった彼らの苦しみが、今になるとなんとなく分かる様な気がします。

芭蕉や良寛さん、アシジの聖フランシスコに出合えたなら、きっといい友達になれたでしょう。又芭蕉や良寛さんもイエズス様を信じる様になっていたでしょう。

